

公益社団法人日本動物学会 2018 年度第 4 回理事会

1. 開催された日時 令和元年 9 月 11 日(水)15 時 30 分～18 時 00 分
2. 開催された場所 大阪市立大学杉本キャンパス 全学共通教育棟 840 番教室
3. 理事総数及び定足数
総数 20 名 定足数 11 名
4. 出席理事数 17 名

(会場出席)山下正兼・勝 義直・小金澤雅之・渡邊明彦・岡 良隆・稲葉一男・武田洋幸・兵藤 晋・加藤尚志・松田恒平・志賀向子・沼田英治・植木龍也・浮穴和義・岡田二郎・小柴和子・吉田 学

(欠席)阿形清和・後藤太一郎・飯田 弘

(監事出席)八杉貞雄・高橋 洋

理事出席者 17 名, 監事 2 名の出席を得て, 理事会は成立となった。議長は, 岡良隆理事。議事録署名人は, 定款 35 条 2 項により, 会長, 八杉貞雄, 高橋 洋 両監事。

5. 報告事項

(1) 2019 年大阪大会準備状況報告(寺北 大会長)

順調に準備が進んでおり, 一般演題登録数は 446 題, 公募シンポジウムは 23, 大会シンポジウム, 本部企画シンポジウムで, 全部で 25 シンポジウムが予定されている。事前登録者 722 名, 懇親会は 412 名の申込みがあった。特別企画は, 今年は高校生のポスター発表の申し込みが沢山で 66 件あり, おそらく 250 名程度の高校生の参加者を見込んでいる。北海道から鹿児島まで, 全国の高校生が参加する。今後も AO 入試と絡めて, 高校生による発表の増加傾向を感じている。動物学ひろばは 15 件の申請を頂いている。最終日は一般公開講演会も予定している。暑い中, 熱気のあるご議論を交わしてサイエンティフィック・トークを楽しんでいただきたい。

最後に岡会長より実行委員会への感謝の言葉があった。

(2) 会長報告(岡 会長)

- 阿形理事の辞任と深津会員の繰り上げに関する補足説明
前回の第1回理事会での審議事項となった阿形理事の辞任と深津会員の繰り上げに関して, 再度説明があり, 了承された。
- ZS 編集主幹および編集委員の交代について
Zoological Science の編集主幹は現在深津会員が勤めているが, 既に任期が5年も経ってしまったため, 2020 年1月より, 沼田副会長にお願いすることになった旨, 岡会長から

報告があった。これを機会に、編集委員も一部交代し、北野潤会員(国立遺伝学研究所)、二階堂雅人会員(東京工業大学)、兵藤晋会員(東京大学)、柁原 宏会員(北海道大学)、三浦 徹会員(新任:東京大学)、志賀向子会員(新任:大阪大学)、田中幹子会員(東京工業大学)、吉田 学会員(新任:東京大学)の構成でスタートすることがあわせて報告された。会長の紹介により、沼田次期編集主幹より挨拶が行われた。また、深津編集主幹のこれまでの貢献に感謝が述べられた。

- 税額控除団体の再申請について

公益財団法人になった際に、税額控除団体として認められてきたが、本年の更新の際、再申請すべき時期がすぎてしまい、8月に認定を受けるための再申請をおこなったことが報告された。手続き上、税額控除団体としての認定が中断しているが、公益社団法人としての活動は十分であり、再認定される見通しであることがあわせて示された。実際に寄附をして頂いた方には事務局から連絡して不利益がないように説明している。

(3) 2020 年米子大会準備状況報告(植木 理事)

2020 年の大会は、既報のとおり米子コンベンションセンター「BigShip」及び米子市文化ホールにて 2020 年 9 月 2 日(水)～5 日(土)に開催することが報告され、準備状況の説明があった。基本的には大阪大会を踏襲するが、発表形式は、口頭発表とポスターの併用とし、発表者を選んでいただく形式とする。また、新しい企画として3つのエクスカージョンの企画があることも報告された。

(4) 2021 年大会準備状況報告(加藤 理事)

2021 年 9 月 9 日(木)～11 日(土)に早稲田大学で開催する方向で実施準備を進めていることが報告された。まだ正式な会場利用の承認が下りていないが、今年末に正式に許可が出る見込みである。4 学部 2 大学院に所属する加藤尚志(かとうたかし)、伊藤悦朗(いとうえつろう)、岡野俊行(おかのとしゆき)、掛山正心(かけやままさき)の 4 名で準備を進めている。東京でも開催校の 4 名に加えて、関東支部から広く委員をお願いしたい旨の要請があった。

(5) 2022 年大会開催場所について(渡邊 理事)

2022 年 9 月 2～5 日で実施する方向で検討しており、開催場所としては山形か福島を検討中であることが報告された。今年末ぐらいに決定したい。

(6) Zoological Letters 編集長報告(倉谷 ZL 編集長)

今年度のインパクトファクターがca. 2 となり、前回より下がったので、できるだけ引用して欲しい旨、お願いがあった。また、今年より APC がかかるようになり、投稿数は減って採択率が上がっている。しかし依然として外国人の投稿が 60%を超えており、国際誌として遜色ない状況となっていることが報告された。

また、APC の一部サポートについて、十分活用されていない現状があるため、できるだけ周知して欲しい旨、要請があった。

(7) Zoological Science 編集主幹報告(深津 ZS 編集主幹)

まず、深津編集主幹からも今年いっぱい退任する旨の報告があり、退任にあたっての感謝の辞が述べられた。

また、今年の本大会の本部企画シンポジウムにおいて、過去に ZS award を受賞した若手研究者の発表を行うことが報告され、是非参加して欲しい旨の要請があった。

(8) 寄附委員会報告(小金澤 理事)

2018 年度の寄附件数は 139 件で、このうち 47 件は札幌大会中止に伴う懇親会費からの寄附である。総額は 1,684 万円で、うち 1,500 万円は茗原眞路子研究奨励基金の原資である松實俊子氏からの寄付であり、OM 賞の大場氏からの寄附を除くと 84 万円ほどで、例年より若干減少した。税額控除団体として認定されるためには、寄附額そのものではなく、3000 円以上の寄附を 100 件以上確保しなければいけないため、更なる寄附の増加への協力要請があった。

広報活動の一環として、寄附依頼のチラシを用意し、これを振込用紙と共に関東支部の講演会と、東北支部の講演会で配布した。寄附をしていただいた方への謝礼や寄附の増大について、意見が交わされた。

(9) キャリアパス小委員会報告(加藤 理事, 石原 キャリアパス小委委員長)

加藤担当理事より、キャリアパス小委員会での意見が紹介された。特に、就活中の学生の発表支援として、演題登録期間の延長が提起された。

次に、石原委員長より、先日行ったキャリアパスに関する調査について、最終報告が行われた。報告後、この報告書を持って動物学会としての報告とすることが承認された。今後、この報告を web 等で公開することとした。

さらに、今後のキャリアパス委員会としての活動について議論が行われた。

(10) 男女共同参画委員会報告(小柴 理事)

大阪大会中に行われる、第 19 回男女共同参画懇談会の内容の紹介があり、参加の依頼があった。また、第 4 回大規模アンケートの動物学会会員分の解析についての報告があり、最終報告についての審議依頼があった。

また、過去の報告について、Web への再掲載が依頼され、承認された。

6. 審議事項

第一号議案 学会賞等選考委員会委員選出

事前に行われた理事・評議員による投票の開票が行われ、下記の会員が選出されたことが報告され、承認された。

富岡憲治(生理), 稲葉一男(形態), 西田宏記(発生), 和田洋(分類), 松田恒平(内分泌), 志賀向子(生態), 加藤尚志(生化学)

第二号議案 2020 年国際動物学会議 シンポジウムについて

武田理事より, 2020 年 7 月 20-24 日に南アフリカ・ケープタウンで開催される 23rd International Congress of Zoology の紹介があった。前回の沖縄大会での成功もあり, 日本動物学会としてもシンポジウムを 1 件企画しているので, 積極的に参加して欲しい旨, 要請があり, 了承された。

次回(2019 年度第 3 回理事会)は 2019 年 12 月に web 会議での開催を予定している。

2019 年 月 日

上記の内容で相違ないことを証するため, ここに記名押印をする。

議長 岡 良隆

議事録署名人 八杉 貞雄

議事録署名人 高橋 洋